

長野県で確認された2種の北方系水草の分布南限について

平松 新一
(信州大・繊維学部)

1983年と84年に長野県中部以北地域の湖沼や河川における水生植物の分布を調査した。その中で、長野県を本邦における分布の南限とする2種の水生植物の新しい産地を確認したので報告する。

1) エゾノミズタデ *Polygonum amphibium* L.

本種は北海道、本州の一部地域に分布するほか、長野県でもこれまでに2ヶ所の産地が知られている(大滝・石戸、1980; 横内、1983)。

今回その分布が新しく確認されたのは、上田市別所温泉地区にある山田池で、1983年8月にその生育を発見し、1984年夏の水草研究会第6回集会后、大滝末男先生にも再確認していただいた。山田池は農業用のため池で水位変動が毎年数mに達するが、本種は池の満水時の汀線付近に、陸生葉と浮葉を形成して生育していた(写真1)。

なお、長野県におけるエゾノミズタデの産地とされていた長野市の田子池および飯綱高原の大池には、1984年

の調査時には本種の生育が確認できなかった。

2) ホソバヒルムシロ *Potamogeton alpinus* Balb. (写真2)

本種も北海道及び東北地方の一部に分布することが知られている。長野県では過去に原(年代不詳)により軽井沢で記録されており、標本が東京大学に保存されているというが、その正確な生育場所は不明であった。

本種を発見したのは軽井沢町馬取地区にあるため池で、1984年8月に採取し、標本を角野康郎先生に送り、ホソバヒルムシロであることを確認していただいた。この池は周囲数十m程度で、現在は特に利用がなく、水位変動は少ない。本種は水深1m程度の場所に比較的豊富に生育している。

この短報を草するにあたり、種の同定についてご教示いただいた、大滝、角野両先生に深謝の意を表す。



写真1. エゾノミズタデ *Polygonum amphibium* L.
1984年8月12日撮影 上田市別所温泉山田池。
撮影時には水位低下により生育場所が干上がった。
ていた。

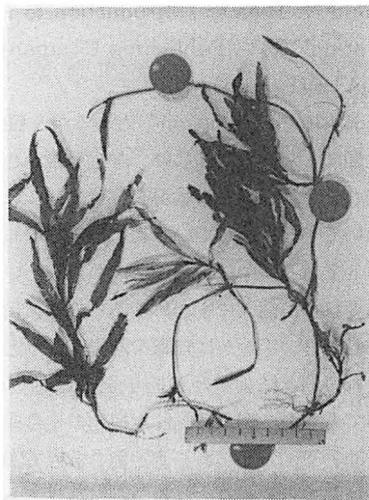


写真2. ホソバヒルムシロ *Potamogeton alpinus* Balb. 1984年10月30日撮影 軽井沢町馬取地区で採取。

水生植物談話会

第32回日本生態学会大会(広島大学 1985年3月28日~31日)に於て、表記の自由集会がもたれました。水草の生態に関する自由な討論と情報交換を目的としたものです。今回は、1. 林 浩二(茨城大・理): オニバス

個体群の年変動について、2. 森 徹夫(信州大・理): ヒシの生長様式における初期生長の役割、の2題の話題提供があり、活発な討論が行なわれました。来年も同様の集会がもたれる予定です。